

# 29 飾磨橋西地区



しら調べたこと、わかったことを書いてみよう!



江戸時代、各地に物を運ぶ船着き場として大いに栄えていたので、船に関するものがたくさん残っていますね。他にどんなものが残っているか調べてみましょう。

**あかづくのそうこ 赤レンガ造りの倉庫**

明治9年(1876)に完成した官営生野鉱山馬車道の旧飾磨津物揚場跡に残る倉庫です。フランス人シスレーが設計しました。約70万個のレンガを使用し、レンガの積み方はイギリスづみといわれています。日本で初めての高速度道路ともいわれる「銀の馬車道」の終着点です。

行った日

**うおやほりあとひ 魚屋堀跡碑・尊王志士上陸地碑**

魚屋は岡上家の屋号です。江戸時代の終わりに「生麦事件」を起こした平野国臣たちがこの場所に上陸しました。岡上家では門前に堀をつくり、海運を行っていました。その堀が「魚屋堀」とよばれていました。堀の多くが昭和6年(1931)の臨海道路をつくるときにうめ立てられました。

行った日

**かんせい きねん ひ グリーンベルト完成記念碑**

公害を防止するだけでは、住みよい街をつくることはできないと考えた市は、昭和46年(1971)から工場が集まっている地域にグリーンベルトをつくりました。広畑東地区から妻鹿地区まで約7kmもあります。今では、桜の名所として親しまれています。

行った日 etc

**じぞうせん にしほせえ 地蔵尊(西細江)**

近くに住む人々から提灯がたくさんおさまられています。お地蔵さまの名前はわかりません。言い伝えによると、100年以上前から2体の石仏がおかれていたらしく、その後、石仏が増えていき、ほこらも建ち、今のようになったそうです。門柱に「明治44年(1911)細江村区長」と彫られています。

行った日

**たかくらだいみょうじん 高倉大明神**

中細江公民館の横にあり、地元の人からは「高倉さん」とよばれて親しまれています。島田タバコ店横にほこらがありましたが、明治28年(1895)、ため池の埋め立て地に移されました。昭和46年(1971)に拝殿は取り除かれ、跡地には公民館と社殿が建て直されました。

行った日

**なかしまけ 中島家**

北前船の廻船問屋(今でいう輸送業者)で、主屋の向こう側には土蔵が建ち並んでいたそうです。主屋は間口6間、奥行き6間半もある大きな町家です。2階に小さなむしこ窓があり、1階には出格子がつけられているなど、伝統的な形が保存されています。

行った日

**はま みやてんまんくう 浜の宮天満宮と秋季例大祭**

境内の「えべっさん」は宮町、築屋敷、須加町西部と東部の4か所から移したものと伝わっています。漁業の神さまである夷神をまつって、それに菅原道真を神さまとしてまつることが重なったと考えられます。屋台練りと「サイテパチーサー」のかけ声で、屋台を差し上げる台場差しは市の無形民俗文化財に指定されています。

行った日

**ひめじはんうらてばんしよあと 姫路藩浦手番所跡**

姫路藩がつくった番所で、飾磨津川口御番所ともよばれていました。主な仕事は、灯籠台の管理、船のけんさく、しご、船のひびき検査、海の事故のときの救助や米蔵とお茶屋の警備などでした。あつた場所ははっきりとはわかりませんが、飾磨区須加にある民家が、番所の隣に建てられた長屋の跡ではないかと考えられています。

行った日

**ふじた おうけんしよう ひ 藤田翁顕彰碑**

飾磨津の河口は浅くて、200石以上の大きな船が出入りできなかったそうです。そこで、弘化3年(1846)大浜の肥料問屋・藤田祐右衛門が中心となり、丸亀港を参考に工事を行い、6か月で濕保(港)を完成させました。藤田はこの働きによって、大年寄という位になり、苗字を持つことも許されました。

行った日

**みやほりがわりよくどう 宮堀川緑道**

宮堀川沿いに整備された遊歩道です。水をながめ、季節の移ろいを感じながら散歩が楽しめる最高の場所です。

行った日